

3.2.6 E 大学

(1) 経済学部 1 号館改修事業

ア 効果等の把握に関して得られた成果

E 大学経済学部 1 号館改修事業は、東アジア経済に関する国内外の研究者との共同研究、発展途上国の財政行政官・実務者等への英語による税務関係リカレント教育、地域の活性化のための地域社会活動への参画など特性を生かした教育研究を進めるためスペースを確保し、社会及び国際貢献への強化を推進するとともに、耐震補強により安全な教育研究環境の確立を目指すことを目的として実施され、平成 19 年 3 月に完成した（事業の詳細は参考資料参照）。

以下に示す効果発現過程の中で、定量的なデータの入手が可能であった指標をみると、科学研究費補助金件数・金額、大学院への進学率、欧州英語討論会参加人数などが増加している。

ヒアリングによれば、整備前の施設は、スペース利用面で多くの課題があったが、オープンな空間確保や貿易文献資料センターの移転により動線が改善するなど、学生・教員にとって、利用しやすい施設になり、高度で専門的な教育や研究分野においても成果が上がっているという。

また、地域実践教育研究センターの設立をはじめ、一般市民向けシンポジウムの開催、自治体からの研究受託、自治体との包括連携協定の締結等、教育研究成果の地域社会への還元による地域貢献活動も活発化している。

更に、アジア経済社会研究センターの設立をはじめ、英語による国外官民実務者への教育などによる国際貢献も強化している。

当該施設の特徴として、共同利用スペースの活用により、国際的な教育研究拠点を形成し、グローバルな人材を育成するとともに、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる人材の育成にも注力している点があげられる。共同利用スペースの活用により、国際的教育研究拠点及び地域課題解決拠点を形成したことは評価できる。今後は、さらなる成果の生成と、成果を客観的に示すための指標の収集、評価が課題である。

イ 施設概要

(ア) 建物規模・工事費

構造	: RC5-1
建築面積	: 1,682 m ² (うち増築 106 m ²)
延床面積	: 5,499 m ² (うち増築 324 m ²)
工事費	: 587,023 千円

(イ) 主要用途

経済学部研究室、ゼミ室、情報教育プラザ、事務室、国際交流ラウンジ、附属

アジア経済社会研究センター，プロジェクト研究室（成長戦略研究センター），図書室

(ウ) スタッフ

教員約 50 名，職員約 20 名

ウ 教育研究上の背景

平成 16 年度から平成 18 年度において，文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）「地域に根差した課題解決を担う人材の実践的育成」を実施し，地域課題解決への取組が強化されつつあった。

また，国際経済分野と経済に関する法分野を有する経済学部における，東アジア経済に関する国内外の研究者との共同研究，地域の活性化などを見いだすための地域社会活動への参画など特性を生かした教育研究を進めているが，スペース利用などで活用に制約があった。

そこで，老朽化，耐震性の改善と併せて国際経済分野と経済に関する法分野を有する経済学部における教育研究用のスペースや地域課題解決のためのスペースを確保するため，本施設整備を実施した。

エ 施設整備の課題とその短期的アウトカム指標

(ア) 教育

- ・昭和 49 年に建設した当該施設は，築 30 年を超え，施設の狭隘化に加え，建物内外装や照明設備，設備配管等の設備が著しく老朽化していた。また，コンクリート強度が最小 10.9N/mm^2 と低く，学生の安全確保が急務となっていた。更に， I_s 値 0.24 と耐震性が著しく低く，躯体に貫通クラックが発生するなど危険な状態であった。
- ・2，3 階にあるゼミ室や，3 階北側にある貿易文献資料センターなど専門教育に必要な施設への移動動線が複雑だったため，動線を効率化する必要があった。そのため，ゼミ室や情報機器系施設の集約が施設整備の課題となっていた。そのほか，事務室スペースの再配置や共同学習等の用に供する共同利用スペースの確保も課題となっていた。
- ・これら施設整備の課題を解決するため改修を実施した。その結果，2，3 階にあったゼミ室を 3 階に集約した。また，3 階北側にあった貿易文献資料センターの跡地に情報教育プラザ，マルチメディアゼミ室，経済 PC プラザを 3 階に集約し，情報機器系の施設を集約し，動線の効率化を実現した。
- ・また，1 階南側に事務室のスペースを確保し，学生受付コーナーを作ることで，学生からのアプローチが容易となった。更に，1 階東側にエントランスホール，国際交流ラウンジをつくり，開放的な空間を築くことで，動線が改善したほか，交流スペースが増加した。

- ・これらの施設整備によって学生の学習意欲が向上した。
- ・さらに、E大学の学部（全学部の卒業生）から大学院国際社会科学研究所に入学した割合（学部→博士課程前期）平成23年度7.80%だったが、平成24年度には18.33%となり、大学院進学率が向上した。
- ・ゼミナールを履修する学生数は平成23年度の3年生が211名、4年生が208名、平成24年度の3年生が192名、4年生が216名となり、専門的な教育機会が増加した。
- ・公認会計士試験の平成23年度合格者数は12名（経済学部と経営学部の合算）、うち、平成23年度経済学部卒業生で、公認会計士の資格を取得した者が3名いた。この3名のうち2名は、会計監査法人に就職。他の1名は民間企業に就職し、専門的知識を有する資格取得面でも効果が出た。
- ・また、TOEIC500点以上を取得した者は、平成23年度卒業生のうち8名であり、このうち、大学院に進学した者1名、官公庁に就職した者3名、民間企業に就職した者4名であった。

（イ）研究

- ・改修の実施により、2、3階にあったゼミ室を3階に集約した。また、3階北側にあった貿易文献資料センターの跡地に情報教育プラザ、マルチメディアゼミ室、経済PCプラザを3階に集約し、情報機器系の施設を集約し、動線の効率化を実現した。
- ・また、1階南側に事務室のスペースを確保し、学生受付コーナーを作ることで、学生からのアプローチが容易となったほか、1階東側にエントランスホールをつくり、開放的な空間を築くことで、動線が改善した。
- ・これらの施設整備によって、経済学部関係の科学研究費実績は、件数が平成17年度の17件から、平成24年度の33件に倍増。金額も平成17年度：23,300千円から平成24年度の44,734千円に増加した。さらに、論文、著書件数も平成22年度の144件から平成23年度には155件に増加した。
- ・これらの短期的アウトカム指標の確認により、若手研究者の研究意欲向上、研究成果の質の向上、研究分野の裾野の拡大の効果が発揮できた。

（ウ）地域貢献

- ・平成19年度より、地域実践教育センターを設立し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる21世紀型人材の育成を進めている。地域実践教育センターは、21世紀型人材育成の基盤となる先端的かつ複合的な実践教育活動を推進する拠点であり、改修事業によって整備された。
- ・これらの施設整備によって、平成24年度には県内外の2つの自治体と包括連携協定を締結し、特定地域の課題解決にあたっているほか、自治体の審議会や委員会の委員として、6名の教員が参画し提言するなど、研究で培った専門性を生

かして、地域貢献活動を行っている。

- ・これらの短期的アウトカム指標の確認により、地域性のある研究テーマの増加、地域の課題解決、知的資源の集約、自治体等との連携体制構築の効果が発揮できた。

(エ) 国際化推進

- ・改修による共同利用スペースの活用により、アジア経済社会研究センターを設置し、国際的な教育研究拠点を形成するとともに、世界に貢献しうる素養と行動力をもった国際的人材を育成が可能になった。また、研究室やゼミ室、情報系教室が集約された。
- ・これらの施設整備によって、平成 18 年より、アカデミックな英語力養成や専門知識活用の目的で欧州英語討論会を実施。毎年、ヨーロッパの協定校などで実施している。討論会への参加人数は平成 19 年 8 人、平成 20 年 5 人、平成 21 年 9 人、平成 22 年 10 人、平成 23 年度は 20 名と、増加傾向である（平成 24 年度も 20 名程度）。また、平成 22 年度より、アジア英語討論会も開始。討論会は日本とアジアにある協定校の双方で実施（平成 24 年度参加人数は 10 名程度）。これらの短期的アウトカム指標の確認により、国際化に対応できる学生、教員が増加するという効果が顕在化した。
- ・また、平成 22 年度の留学生は 63 名いたほか、経済学部では平成 15 年度から協定校への短期留学（1 年以下）が可能になっている。経済学部学生の留学可能な協定校数は、平成 16 年度 18 校、平成 17 年度 21 校であったが、平成 18 年度に全学オープン化ポリシーにより更に増加し、平成 24 年現在 52 校となっている。これらの短期的アウトカム指標の確認により、海外との交流機会の増加という短期的効果が顕在化した。

オ 施設整備の効果指標に対する大学の意見

- ・受託事業や補助金などの外部資金（科研費除く）は、必ずしも増加しているわけではない。企業の業績や国の方針によって、金額が変動している。
- ・成長戦略研究センターは、ベンチャー向けの支援を主としており、教員が外部から資金を獲得するのとは異なる（科研費との相関関係はない）。

カ E 大学経済学部 1 号館改修事業の効果発現過程（別表）

E大学経済学部1号館改修事業の効果発現シナリオ

